

## 〈ことばのテーブル教材集の目的と使い方〉について

ことばのテーブルでは、2000年に、最初の市販教材「名詞・動詞150絵カード」を制作以来、これまでに31点の教材を発売してきました。どの教材も、ことばのテーブルに通う子どもの学習教材として作り始めたものを、整理・追加し、まとめたものです。子どもの多様な学習ニーズに合わせて教材作成を続けているうちに、いつしかこのように多くの点数を数えるようになりました。

教材が多種多様に用意されていることは、子どもひとりひとりの能力や特性に応じた学習を行うために、不可欠な条件だと思います。しかし、発達障害を持つ子どもは、その未熟さが特定の言語領域・認知領域に限られているわけではありません。多くのケースで、領域全般に遅れや異質さが認められます。語彙・文法・発音・心理洞察・記憶など、様々な学習を行う必要がある子どもを前にして、まず何から取り組めばよいかを決めるのは、とても難しい問題です。たとえばことばのテーブルの教材を使って、学習を始めようと思ったとき、いったいどの教材から取りかかればよいのか、どれをどの程度までやればいいのか、どのような順序や組み合わせで教材を選んで行けばいいのか。療育をされている方々から、実際に、そのようなご質問を頂くこともしばしばです。教材の選択肢が多いことは、もちろん大切なことですが、それ故に迷いや不安が生じるという側面もあります。子どもにとって学びの時間は無限ではありません。限られた時間と労力の中で、出来る限り効果的に学習を進めて行く道筋を、これまで、そしてこれから作成する教材や課題の枠組みの中で、少しずつ探って行きたいと思っています。

今回は、**ことばのテーブルの教材をご利用いただくためのひとつの資料＝教材ガイド**として、「ことばのテーブル教材集の目的と使い方～2018年版～」を作成しました。**これまで出した教材のいくつかを、学習領域ごとにまとめてご紹介をするものです。今後発売される新教材や、今回ご紹介できなかった既成の教材については、また来年作成予定の「2019年版」に掲載させていただければと思います。**

今回の資料が、ことばのテーブルの教材選びやご使用の一助となれば幸いです。

2018年11月 葛西ことばのテーブル 三好純太

### 追記

資料の最後に、**外国とつながる児童のことばの問題についてのスライドを、併せて掲載**しています。日本語を母語としない子どもの教育・療育の充実が急務となっています。日本語教育の現場で、ことばのテーブルの教材をご利用いただいたり、また支援団体の研修会などに伺ってお話をさせていただく機会もいただくようになりました。載せているスライド資料もそのような研修会でお話した内容のものです。この問題に、関わられていたり、関心を持たれている方も多いかと思い、紹介させていただきました。